

1 研究主題 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る教育の充実に向けて」

2 研究の具体

幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領では、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化など、学校種や施設類型を越えて子どもの成長を支える手掛かりが共通に整理されている。また、令和4年3月には中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」の審議経過報告が取りまとめられ、『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)』及びその参考資料(初版)が策定された。幼保小の架け橋期(0～18歳の学びの連続性に配慮しつつ、5歳児～小学校1年生の2年間を対象)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤が育まれるよう、各地域や施設の創意工夫を生かした取組の充実が求められている。

<県の取組から>

(1) 幼児教育長期研修

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けた連携の推進を図るため、小学校教諭が近隣の幼稚園等において、1年間幼児期の教育に携わり理解を深めることを目的とし、平成22年度から実施している。派遣教員は、コーディネーター役となって幼児と児童の交流活動及び教員等間の研修の計画を立て、実践につなぐとともに、接続期(5歳児後期・1年生入学期)の指導の工夫及び発達や学びをつなぐ教育課程の編成や指導計画の作成についても研究を進め、1年間の研修を終え小学校に戻ってからも、引き続き実践的研究を行っている。

(2) 幼・保・こ・小理解研修会

幼稚園教員、保育士、保育教諭、小学校教員が相互の教育について理解を図るとともに、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方を探るために必要な協議を行い、教員の指導力の向上に資することを目的として実施している。今年度はオンラインで開催し、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について考える～幼児期から小学校入学までの具体的な子どもの姿と幼児教育長期研修教員の実践から～」のテーマのもと、実践発表や協議を行った。協議では「表現力の芽生え」や「表現力の基礎」という視点で、長期研修教員の実践発表から共感したことや発見したこと、これまでの自分の実践等について交流し、「学びをつなぐ」ことについて考えを深めていった。

<市町の取組から> **令和4年度 高松市 幼保小の架け橋カリキュラム開発会議**

国の「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」モデル地域として、「幼保小の架け橋カリキュラム開発会議」を設置し、これまでの就学前教育と小学校教育の連携・接続に関する取組の成果をもとに、架け橋期のカリキュラムの開発を行い、高松市全ての小学校区への普及に努める。

(1) 研究テーマ「子どもの学びをつなぐ、持続可能な保こ幼小連携・接続」

研究の柱 ①気軽に対話できる教職員関係の構築

②子どもの学びの共有と分析

③連携校区の実態に即した接続期カリキュラムの充実・改善

(2) 研究開発校区(以下、開発校区)の実態に即した連携・接続と教職員の協働

・めざす子ども像を教職員間で共有し、連携・接続のステップを参考に、取り組む内容や方法について共通理解し実践する。

・開発校区での参観及び協議により、各校区の実態に即した架け橋期のカリキュラムの改善を行う。

(3) 教職員が協働して実施する連携・接続に有効なツールやその活用方法の検証

・「高松っ子いきいきプラン改訂版の活用資料【子どもの学びをつなぐ】」に掲載の「子どもの学びトークシート」「交流シート」「交流・参観メモ」等を連携校区の取組内容に応じてカスタマイズし、活用する。

・教職員の対話や、互惠性のある交流に向け、タブレット等を活用する。

(4) 開発校区の実践の分析とまとめ

・関係者による会議において、開発校区の実践をもとに協議し、具体的方策等をまとめる。

・市内全ての小学校区の取組につなげる。

1年目 開発校区	
檀紙校区	高松市立檀紙小学校
	高松市立檀紙幼稚園
	私立まゆみ幼稚園
	私立高松西保育園
香南校区	高松市立香南小学校
	高松市香南こども園
牟礼校区	高松市立牟礼南小学校
	高松市はらこども園
	高松市立牟礼小学校
	高松市立田井保育所

